

「修学旅行特集」感動ある体験と成長の旅

『自ら考え、判断し、行動する生徒』を目指して、生徒の手で目標を決め、自主研修の計画を立て、準備に取り組んできた修学旅行。
二人の生徒が体調を崩し、やむなく三日目に帰宅となりましたが、旅行中はおおむね好天に恵まれ、道南・道央の歴史や文化を堪能しながら、感動ある体験と人々との出会いや集団行動を通して自己成長のある貴重な旅になりました。

第一日目(士別・長万部・函館) (四月二十五日)
午前七時、保護者の皆さんに見送られ、バス三台に分乗して三年生全員が元気に出発。士別剣淵インターより高速道で一路長万部へ。
バスの中では、体調をくずす生徒が出たものの、昼食の名物「蟹めし」はみんなで堪能。
その後、ガイドさんやレク係生徒が企画したゲームを楽しみながら、長い移動時間はあっという間に過ぎた。
また、好天のおかげで、車窓からは樽前山、有珠山、駒ヶ岳の姿も見ることができた。

函館に入ると、新五稜郭タワーを見学。展望台からの広大な歴史パノラマに歓声が響く。
「花びしホテル」には午後四時三十分に着。ホテル担当者から、南中が今年度の修学旅行生受入れ第一号とお話になり、「よし礼儀とあいさつを頑張りよう」

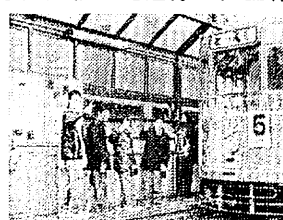


豪華な思い出の第一号となった。だが、その集合写真撮影の時刻になって、生徒数人が戻ってこない。さっそく担任にお灸をすえられ、集団行動の大切さを美談する。
函館山からの帰りには、ライトアップされた美しい街並みを車窓見学。こどもも生徒から感動の歓声が上っていた。

第二日目(函館市内自主研修) (四月二十六日)

あいにく、雷雨模様。朝を迎えたが、自主研修に出かける九時には晴れ間がのぞく。
十五のグループに分かれた自主研修の共通チェックポイントは、金森倉庫群の西波止場、函館朝市や元町の教会・旧公会堂などの歴史建造物、美術館が入る金森レンガ倉庫群などを訪ねた自主研修は、門限が十六時ちょうど。この間、ホテルに待機する本部にはトラブル発生の連絡がなく、生徒全員無事ホテルに到着するものと思いきや、門限を過ぎても戻ってこないグループが二班。前日の教訓が生かされず、再びお灸をすえることになった。
その後の班長会議で出された自主研修の反省では、混み合う市電の中で席を譲ったこと、挨拶や礼儀に心がけ、計画どおり協力して行動したことなど、自分たちで考え、努力するリーダーたちの言葉に、成長する生徒の姿を見ることができた。

一方、夕食前に生徒が一人体調を崩し、ハイヤーで救急病院に搬送する。流行性感冒との報告を受け、緊急対策の打合せを招集。
夕食後、生徒のレクリエーション集会を進めながら保護者と連絡を取り、帰宅搬送の手続きをとる。
治療を受けた生徒がホテルに戻った九時前、レク集会を終えた生徒一人が体調を崩し、再び救急病院に搬送。病院に付き添う下村教諭から気管支炎との連絡を受け、保護者に連絡し、対応策を相談する。
一方で、生徒の相談事や就寝指導のため、教員全員が手分けしながら、相談や指導、病気の生徒の看病や連絡対応に当たる。
二人目の生徒が病院から戻ったのは午前0時過ぎ。二人の生徒を同長室と予備室に隔離し、担任と養護教諭が付き添う。

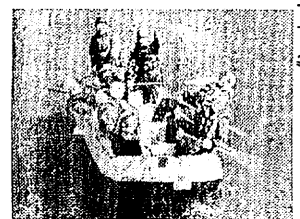


第三日目(コース別体験研修) (四月二十七日)

午前六時過ぎ、生徒の症状から二人を一緒に帰宅搬送することを決定し、保護者に連絡。JR札幌駅で引き渡すこととする。
ホテル従業員のはからいで、朝食を食べられない生徒に軽食セットを持たせていた。七時三十分、北市教諭の引率で生徒二人が函館駅に向かう。他の生徒たちは朝食後、荷物をまとめて八時にホテルを出発。快晴の下、一路体験研修先のニセコに向かう。
十二時前、ニセコの屋敷会場、ホテル日航アンヌプリに到着。カレー・牛丼・中華丼のバイキングに舌鼓を打つ。
昼食を終えた生徒たちは、午後一時、三台のバスに分乗してコース別体験研修に向かう。

《ラフティングコース 六十一人》
透明度日本一の尻別川は、やや風が強いものの、快晴の空に映える羊蹄山を眺めながらの川下りには絶好のコンディションである。
十艇のゴムボートに分かれ、安全装備に身を包んだ生徒たちは、ガイドさんの指導で一致協力してバドルを漕ぎ、水しぶきに歓声をあげながら、雄大な大自然を堪能していた。
《陶芸・アイスづくり(十三人)とガラスアート・アイスづくり(十六人)》
カップやお皿などの陶芸作品づくりと、絵のシールをガラスに貼り模様を刻み込むガラスアートの二コースに分かれ、工芸体験に挑戦。どちらも手作りのアイスを楽しむながら、思い思いのデザインを形にする工芸の醍醐味を楽しむ。

一方、帰路の生徒と引率の三人を乗せた特急列車は、予定より遅れるハッキングもあったが、十二時二十分に無事札幌駅に到着。保護者の待つ列車に合うことができた。
その後、生徒と保護者を乗せた列車は、午後二時四十分、士別駅に到着。出迎えた教頭から連絡が入り、一安心する。



体験研修を終えた生徒たちは、午後五時三十分から六時にかけて宿泊先の「ホテルヒルトン小樽」に到着。小樽港の絶好のロケーションを眺められる高級ホテルとあって、生徒たちも緊張気味の様子。
夕食会場の大ホールでは、慣れない洋食コース料理にとまどいながらも、ニセコでの楽しい思い出話に花を咲かせる場となった。
食後の自由時間では、最後の夜とあって部屋同士の行き来でにぎわったが、就寝の見回りでは多くの部屋から寝息が聞えていた。

第四日目(札幌市内自主研修・士別) (四月二十八日)
旅行の最終日。朝から澄み切った青空が広がる。生徒の体調も心配はなく、朝食後の八時三十分、小樽・札幌市内の自主研修に出発。
共通チェックポイントは、小樽駅と札幌駅の構内。北一ガラスヤオロ堂、JRタワーやテレビ塔、札幌ファクトリーなどを巡り、札幌駅北口には昼食をとって午後二時三十分集合。初めてグループ全員が集合時刻に間に合い、無事に帰路につくことができた。

午後五時二十分、バスは予定通り学校に無事帰着。出迎える保護者の皆さんに旅行の報告をし、解散式を終える。
三年生諸君には、まず、旅行に送り出してくれたさつた保護者の皆さん、安全をサポートしてくださった添乗員さんやバス会社の皆さん、旅行先でお世話になったホテルや見学の先生の方々、そして、寝ずの番で健康安全に尽くした引率職員など、この旅行にかかわった人々に感謝の心を伝えてほしいと思います。
そして、この旅行で培った正しい判断力や行動力、支え合う仲間意識を、「単月祭」など今後の行事や残りの中学校生活に大いに生かし、自己の成長にしっかりとつなげてほしいと心から願っています。
(団長記)

